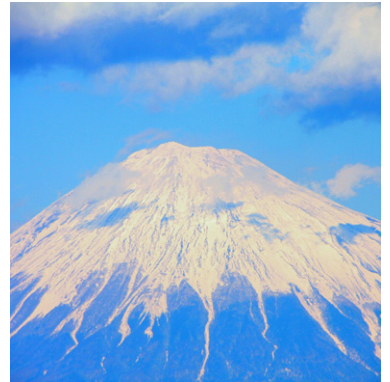


FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 URL <http://www.fujieda-rotary.org/> E-mail club1972@fujieda-rotary.org



【富士山】

写真提供：櫻井龍太君

会長：青島 彰 副会長：仲田 廣志 幹事：大塚 博巳 副幹事：池ノ谷 敏正

第1936回

- ソング 我等の生業・我らが藤枝ロータリー
- ソングリーダー 河井宏文君



【2011-2012年度 RIテーマ】

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

カルヤン・パネルジー

会長報告

青島 彰君

2月2日に満63歳となりました。近頃は色々なことに付け「俺も年を取ったのかなー」と思うようなことが多くなってきました。そのなかで一番驚異に感じるのは集中力の持続が以前の半分くらいになってきていることです。以前からあきらめの早さは感じていましたが、ここ一番に力をださなければならない時は能力の120%くらい知力、体力がみなぎったものでした。3日3晩も寝ずに仕事を仕上げ、一番の新幹線に飛び乗って仕事を納めたときもあった程でした。点ける薬があれば紹介をして欲しいくらいです。

そこで私の晩年運はいかがなものかと思い、インターネットで検索をしてみました。

【青島彰の晩年運】

人情に厚い、しかもパワフルな晩年期でしょう。

つらいことや苦しいことが次々におそってきても、力強いパワーで乗り越えられる人です。反面、そのパワーが生かされずに、わがままであったり、ワンマンとなってしまう傾向もあります。大切な友人を失ったりと寂しい人生となってしまいます。「マザー・テレサ」とまでいかななくても、世のため人のために働くことをおすすめします。

あなたはどんな環境であれ、またどんなタイプの人でも合わせることが出来る順応性があります。慈悲の心も強いので、人へ与えるやさしさはかけがいのないものとなります。

ただ小さいことが気にかかり、落ち込みやすくなることがあります。ポジティブになれるよう、これからも心の修行をしましょう。 またあなたは、

人を育てること・・・教育に向いています。あなた自身が師と仰ぐ人によってあなたの運命は大きく変わる人でもありますので、思い込みや理屈ではなく、人の本質を見抜く力を育てていきましょう。こんな風な晩年運としたらまだまだ頑張れるのかなと思う日々です。

幹事報告

大塚 博巳君

- 第2620地区より、(財)ロータリー米山奨学会「ハイライトよねやま143号」が届いております。
- クラブ細則2012年2月改訂版を配布します。
- 事務局より、創立35周年記念式典の写真を探しています。家で保管されている方はご提供ください。

出席報告

小西 啓一君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
34 / 43 79.07%	35 / 43 81.40%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

赤堀君 石割君 落合君 酒井君

島村君 水野君 松葉隆君 仲田廣君

仲田晃君

(2)メイクアップ者

櫻井 龍太君(藤枝南) 河井 宏文君(藤枝南)

ビジター

伴野 正明君(藤枝南)

スマイルBOX

小西 啓一君

- 小生72才になりました。2月24日が誕生日

ですので、当日は日の丸を揚げようと思っております。天皇誕生日だけ国旗をあげるのではつまらないと思います。 鈴木 廣利君

- 2月は夫婦そろって年をとります。1・2回は誕生日を遠慮したいのですが。 青島 彰君
- 53回目の誕生日です。ありがとうございます。女房は23回目から年が増加しません。

小泉 克彦君

- 妻のたん生日祝ありがとう。とうとう80才になりました。 櫻井 龍太君
- 記念日にはお花ありがとうございました。2月3日には、孫と成田山で豆まきをして、今年一年の幸福を願ってきました。 竹田 勲君
- お祝い有難う。残念ですが、妻が体調不良です。早く良くなって昔の様に皆様とのお付き合いが出来ます様に。 杉山 静一君

スマイル累計金額 154,970円

外部卓話

谷口 ジョイ様



1月中旬、香港において行われた、国際親善奨学生のための事前オリエンテーションに参加した。私はここで、多くの「超私の行いをなす人々」に出会い、ロータリーの奨学生としてどうあるべきか、その指針を明確に与えていただいた。

初日の歓迎晩餐会ではまず、国際親善奨学生としてスコットランドで保健学を学ばれた倉内菜緒子さんが、御自身の携わった東日本大震災の被災地での医療活動についてスピーチを行った。晩餐会は、終始和やかな雰囲気ですぐに歓談が続き、翌日からの過密な研修日程をしばし忘れるほどの楽しい時間となった。

2日目は、「アイスブレイキング」と呼ばれる活動から始まり「ロータリーの展望と実績」「ロータリー財団の奇跡」という講演を聞いた。講演といっても、講師が一方的に話をするというものでは

なく、常に聴衆とやり取りをしながら進めるという双方向的なものである。続く「セクシャルハラスメント」に関する講義は、「セクシャルハラスメントとみなされる行為は各文化圏で異なる。周りを見ること。周りの人がしていないことはしない。よき観察者となろう。」という具体的な助言があった。

分単位の過密スケジュールの中、効果的なプレゼンテーションの手法を学ぶためのセッションを終え、ようやく昼食時間となった。別室に通されると、少数の参加者は豪華な食事を楽しんでおり、その他は質素な食事をみんなで分け合わなければならないという「貧困ランチ」を体験した。(ちなみに卓話者は貧困層であった。)活動後の話し合いの場においては、理不尽さを感じた、自分の声が届かない無力感があった、空腹には耐えられるが「尊厳」を失うことは耐えられない、など様々な意見が出された。

最終日、参加者は「Service Above Self (超私の奉仕)」をテーマとしたプレゼンテーションを行った。多くの参加者が、仲間とつながることで、さまざまな支援が可能となったと強調した。今回の事前オリエンテーションにおける最も大きな学びは「新たな出会いの素晴らしさとその可能性」であった。世界で尊い行いをする「ロータリー」の元集った仲間との、短くも濃密な時間は、「つながることで大きな力が生まれる」ことを再認識させてくれた。

(担当 / 河井君)